

事業報告書

(令和5(2023)年4月1日から令和6(2024)年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

1) 阿寒川水系の水と森林に関わる調査研究(平成16年度からの継続調査)

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き、財団森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川(キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続)で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。

事業費 1,668,314円(予算額 1,703,000円)

事業概要

調査 山形大学農学部 菊池俊一准教授

現地調査

日程 令和5年6月7日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

令和5年6月～11月 水の採取等の現地調査実施

2) 針葉樹一斉林に関わる調査研究

管理森林内の3078林班の西側斜面に、約25haにわたって生立する針葉樹の一斉林が存在する。この林分は、約120～130年前に大規模な攪乱後に一斉に再生した単層林で、亜高山性針葉樹林と位置付けられる。道内では、国有林において亜高山性針葉樹林の保護林の設定が行われ、林分動態の調査、研究が進められている。それらの調査、研究はほとんどが階層構造の発達した極相林で行われており、単層林である本林分はこれまで研究されてきた林分とは大きく異なり、長期的な林分動態の調査は、北海道の亜高山性針葉樹林における林分動態や更新のメカニズムのさらなる理解につながることを期待される。

そこで、今後本林分を保存林化し長期的な調査研究を行うこととし、令和5年度において調査計画の立案に向けた検討を東京農業大学生物産業学部（網走キャンパス）と実施した。

事業費

32,391円（予算額 270,000円）

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

当財団管理森林でアイヌ文化編と自然環境編を開催した。

①アイヌ文化編 「～アイヌ文化にみる森林の活用と伝統文化の継承～」

内容：阿寒の夏の草花や樹木に触れながら、アイヌの人達が生活の中で活用した草花やオヒョウ、シナノキなどの樹木を材料としたアイヌ民族の樹皮衣（アットゥシ）について、日本各地にみられる草木布とも関連させながら、森林の大切さや伝統文化の継承とその課題について学んだ。

日時：7月17日（月）

講 師：本田優子氏（札幌大学教授）、高嶋八千代氏（植物研究家）

参加人数：21名

②自然環境編 「河川水の「にごり」から阿寒の森と川を健康を考える」

内 容：財団が平成16年度から調査研究事業として委託している「阿寒川水系の水と森林に関する調査」において蓄積されたデータや知見などを基にし、広く一般にも森林の保水力や財団の森づくりについて理解を深めてもらうことをテーマに実施した。

日 時：11月11日（土）

講 師：菊池 俊一氏（山形大学農学部准教授）

参加人数：21名

事 業 費 431,928円（予算額 913,000円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事 業 費 1,000,000円（予算額 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

自然観察支援事業（特別支援事業を含む）

当財団管理森林内において、北海道教育大学附属釧路義務教育学校「自然環境教育協働プロジェクト」と連携し、

2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に、教科教育と連動した自然体験プログラムを実施した。

また、特別支援事業として、阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社からの寄付金を活用し、自然環境を守り次世代につなぐ役割を担う子供たちによる財団森林内での自然環境に関する学習が、より効果的かつ円滑に実施されるよう移動手段（貸切バス）などを支援した。

事業費	390,022円（予算額 324,000円）
	内 93,500円（特別支援事業支出経費）

2) 前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、刊行等の事業に対して助成を行った。

事業費	956,187円（予算額 3,354,000円）
-----	--------------------------

事業概要

○ 令和5年度助成採択者

① 地域自然活動センター 森・水・人ネット（伊達市）

助成内容：北海道有珠湾のコメツキガニの生息地の調査と保護活動 助成額：200千円

② 大雪山マルハナバチ 市民ネットワーク美瑛部（美瑛町）

助成内容：大雪山国立公園周縁美瑛部に置ける特定外来生物セイヨウオオマルハナバチ防除事業

助成額：480千円

※ 助成総額 680千円

○ 審査経過

令和5年1月10日 募集広報

令和5年4月14日 審査委員会（書類選考）開催（応募件数：道内の団体・個人より計10件）

○ 審査委員 梶本 孝博 氏（委員長・当財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（元公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

番匠 克二 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

本間 博人 氏（北海道環境生活部自然環境局自然環境課長）

3) 森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より取り組みを開始した。

(ア) 「教育の森」

学校教育の現場で森林並びにその取巻く自然環境（地形・地質・野生動植物・河川等）を活用できる教員育成に資するために行う北海道教育大学釧路校の学生を対象とした指導者養成事業の「きっかけポン／阿寒の森プロジェクト」を昨年度に引き続き支援した。

○ 指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

実施日並びに参加者

令和5年8月7日～9日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等15名

令和5年11月21日～22日（日帰り）北海道教育大学釧路校 大学生等4名

令和6年2月13日～15日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等13名

(イ) 「レクリエーション・健康の森」

当財団が認定した「一步園森の案内人」が実施する管理森林内のガイドツアーによる今年度の入林者数は1,247名（日本人1,082名 外国人165名）で、昨年度の入林者数1,354名（日本人1,293名 外国人61名）と比較して、全体としては多少減少しているが、日本人を中心として入林者数があり、外国人の入林については増加傾向にある。

自然志向への回帰から「一步園森の案内人」による森林散策等への関心が高まりを見せており、一部事業体においては「一步園森の案内人」が不足している状況から養成の要望があり、「一步園森の案内人」の養成事業を昨年度に引き続き実施した。

○令和5年度「一步園森の案内人」による入林者数（令和5年4月～令和6年3月）

入林者数 1,247名（日本人1,082名 外国人165名）

外国人の国籍別内訳

中国27名 台湾20名 韓国1名 タイなどアジア24名

アメリカ37人 ヨーロッパ35人 その他21名

○「一步園森の案内人」（ガイド）の養成

2名（事業体ガイド2名）

(ウ) 「研究の森」では、東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき、財団管理森林内において、天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（学部4年次、修士1年次）」に対する支援を行った。

○ 研究支援

卒業論文4件、修士論文1件に係る、財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援などを実施した。

卒業論文

- ・「倒木更新稚樹の土壌および倒木上における菌根酵素活性の変化」
- ・「土壌への根系到達が倒木更新稚樹の樹幹成長に及ぼす影響」
- ・「北海道東部・亜高山性針葉樹一斉林における林縁部の風倒拡大と更新状況」
- ・「阿寒湖周辺林におけるシカ嗜好性樹種の蓄積量と樹皮剥ぎ被害状況」

修士論文

- ・「阿寒湖周辺森林内における冬期エゾシカ個体変動要因の検討」

○ 実習支援

生態系保全学研究室所属学生に対し、財団管理森林の案内および解説を実施した。

実施日並びに参加者

令和5年7月6日 東京農業大学生物産業学部生（3年次20名）

事業費

759,133円（予算額 952,000円）

(4) 顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈した。また、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動を顕彰する一步園ジュニア自然環境賞を贈呈した。

事業概要

○ 前田一步園賞顕彰者

- ・ 増毛山道の会（留萌市） 北海道留萌振興局推薦

業績： 北海道開拓の重要な歴史的遺産として復元した増毛山道は暑寒別天売焼尻国定公園の豊かな自然環境にその多くがある。同会の定期的な笹刈や指導標識、看板案内などを整備し、その歴史的価値の保全と利用者の安全確保に尽力する傍ら、地元中学生に出前授業と関連させたトレッキング体験の提供、樹木医の自然解説を取り入れた自然体験トレッキング、シンポジウム、パネル展の開催など同山道についての自然普及啓発に取り組む。

- ・ 北海道札幌南高等学校林（札幌市） 北海道石狩振興局推薦

業績： 約121㍊ある学校林をかつての原生に近い多様性を持つ森林（多くの動植物が共存できる多層構造の森づくり）に導くことを基本的方針として間伐などの森づくりを進め、同校生徒の環境意識の高揚に資する活動として森林作業の方法やその意義を伝える傍ら、同窓生を対象とした散策会をはじめ、大学、動物園と協働した調査、動物愛護活動等にも学校林を提供するほか、近隣の有明小学校と同校生徒による学校林を舞台とした交流活動も長きにわたりサポートなどに尽力。

○ 一步園ジュニア自然環境賞顕彰者

- ・北海道教育大学附属釧路義務教育学校（釧路市） 環境省釧路自然環境事務所推薦

業績： 近隣住民と連携した活動や学校内にある身近な「附小の森」と学校林として協定を結ぶ阿寒の森（前田一步園財団管理森林）において、森林、河川、水源、昆虫、野生鳥獣、生態系など様々な素材に触れながら、釧路の産業との関わり、河川や森林の役割、それらを守るための工夫や努力について理解を深める傍ら、体験活動においては前田一步園財団、北海道教育大学の人々を外部講師に、科目の垣根を超えた横断的なカリキュラムを整え、様々な実体験型の学習を展開し、学校内外から高い評価を得ている。

事業費

2,001,186円（予算額 2,408,000円）

○ 審査経過

令和5年 5月19日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

令和5年 8月31日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞2件、一步園ジュニア自然環境賞1件）

令和5年11月 5日 表彰式（ホテルポールスター札幌／札幌市）

○ 審査委員 梶本 孝博 氏（委員長・当財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（元公益財団法人北海道環境財団専務理事）

牛場 雅己 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

鈴木 英樹 氏（北海道環境生活部自然環境局自然環境課長）

（5）地域保全事業

1）山火事予消防活動助成事業

計画なし。

事業費（助成） 0円（予算額 0円）

2）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） 800,000円（予算額 800,000円）

（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

（6）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 260,000円（予算額 560,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、令和5年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良の各事業を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。また、パンケゲートの監視をビデオカメラにて行う機器を新規導入した。

事業費

2,629,000円(予算額 3,110,000円)

(請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業、(株)つうけんアクティブ)

2) エゾシカ食害対策事業

(ア) 「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施し森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの被害状況や生息状況について、独自に、また大学や研究機関と連携して調査を実施した。

囲いワナによる捕獲事業実施にあたって、囲いワナは計6基運用した。なお、運用した6基の内2基は令和5年度冬季に設置した。

令和5年度の森林被害防止対策において、囲いワナの設置（2基）に関しては、補助金（令和5年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い、同補助金を活用し実施した。また、令和6年1月16日～3月26日に捕獲したエゾシカ138頭中、補助対象の成獣132頭については、令和5年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金（1頭あたり6,000円）を受領した。

(イ) 令和2年11月に設置された「阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会」（事務局：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所）に構成員として参加した。

また、同協議会が11月29日に現地検討会を開催した際、財団設置囲いワナ（3113林班）にて同ワナを用いた捕獲の実施について会員に対し説明を実施した。

事業費 23,319,503円（予算額 21,260,000円）
（請負先：(有)前田一步園林業）

事業概要

① 給餌事業

給餌場、ワナ内の給餌

- ・ 春季：令和5年4月4日から令和5年4月14日まで、16箇所、232個給餌
- ・ 冬期：令和5年12月22日から令和6年3月28日まで、17箇所、1,968個給餌

給餌合計 2,200個（ビートパルプ 1個60kg、給餌総量132,000kg）

② 囲いワナによる捕獲事業

- ・ 春季：実施せず

・冬期：令和6年1月16日から令和6年3月26日まで

ワナ数：6基、捕獲：138頭（44回実施）

③ 囲いワナ設置事業（冬期）

囲いワナの設置（2基）

④ ネット巻き事業（ネット480m分）

⑤ 防鹿柵補修事業（5箇所）

⑥ 調査事業

・餌場周辺樹皮食害状況調査（4～5月）（大学と直営で実施）

・森林内出没状況踏査（5～11月）（直営実施）

・森林内簡易チェックシート調査（5～6月）（大学と直営で実施）

・森林内樹皮食害、角こすり状況調査（5～6月）（大学と直営で実施）

・餌場における出没状況調査（1～3月）（大学と直営で実施）

3) 林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理（水切り版設置、砂利敷、整地、土管入替、退避所新設）、およびゲートの補修を実施した。

事業費 2,619,900円（予算額 2,000,000円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

4) 調査事業

林分構成の整備を図るため、現況調査を令和5年度施業実施区域である3107・3109林班の天然生林（70.

0.9ha)にて実施した。加えて、調査に必要な消耗品、備品を購入した。また、ドローンを1機新規導入し、林況の把握・記録を実施した。

事業費 2,041,850円(予算額 2,070,000円)

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理(伐採・移動等)を実施した。

事業費 255,000円(予算額 500,000円)

(請負先:(有)前田一步園林業)

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵えを実施した。

事業費 257,000円(予算額 310,000円)

(請負先:(有)前田一步園林業)

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林24.47haの間伐、8.4haの保育間伐、150mの森林作業道新規敷設、および伐採木(242m³)の搬出を実施した。

事業費 8,526,400円(予算額 6,150,000円)

作業実施林小班 間伐 : 3078-6、3078-15

保育間伐 : 3079-5

作業道 : 3078-15

(請負先：(有)前田一步園林業)

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、8 ha の天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木(4,800本)を植栽した。また令和6年度植栽予定地7.53 ha の地拵えを実施した。

事業費 4,064,000円(予算額 3,930,000円)

作業実施林小班 植栽：3119-10、12

地拵：3119-11

(請負先：(有)前田一步園林業)

2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、令和3年の植栽地7.00 ha の下刈を実施した。

事業費 440,000円(予算額 2,800,000円)

作業実施林小班 3119-7

(請負先：(有)前田一步園林業)

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、67.41 ha の間伐、および伐採木(1,306 m³)の搬出を実施した。

事業費 19,501,600円(予算額 15,980,000円)

作業実施林小班 間伐：3107-3・7、3109-2・3・4・7

(請負先：(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

(4) 北海道電力ネットワーク(株)送電設備更改工事関連事業

令和4年5月北海道電力ネットワーク(株)(以降、北電NWとする)が開始した送電設備更改工事は、送電線用地の拡幅が必要で、財団管理森林内において支障木(10,398本、北電NW調査)が発生する見込みであり、当初計画では令和4年度中に支障木の伐採・販売が完了することとしていた。

しかし、北電NWが関係省庁へ必要な許可申請手続きを取っていなかったため、工事は一部が実施された後中断となり、残りの伐採は令和5年度実施・完了へと計画が変更された。本年度申請を行ったが、許可まで時間を要したことにより、事業の一部が令和6年度へ持ち越されることとなった。また、申請にあたり鉄塔の高さの見直しが必要となり伐採範囲の追加(1,334本、北電NW調査)が生じ、該当箇所分の立木補償が発生した。

令和5年度は、一部工事実施個所において生じた伐採木(245m³)の販売に係る搬出を実施した。

事業費 781,200円(予算額 7,270,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

(5) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」。加えて、ドローン操作に係る研修を受講した。また、J-クレジット申請に関連する情報収集を実施した。

事業費 1,268,161円(予算額 1,260,000円)

(6) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は15件、人数は237名であった。

おもな視察受け入れ内容

令和5年	4月	8日	1日	エゾシカ対策（北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター）	(10名)
令和5年	5月	26日	1日	森林視察（釧路税務署）	(5名)
令和5年	6月	7日	2日	森林視察、映像撮影（（株）シグロ）	(3名)
令和5年	6月	29日	1日	オヒョウ皮採取（アイヌ工芸協同組合）	(12名)
令和5年	9月	1日	1日	森林視察（JICA）	(15名)
令和5年	10月	3日	1日	森林視察（釧路市林活議連）	(14名)
令和5年	10月	11日	1日	森林視察（JICA）	(12名)
令和5年	10月	12日	1日	森林視察（北海道環境財団）	(7名)
令和5年	10月	17日	1日	森林視察（釧路市立マリモ幼稚園）	(15名)
令和5年	10月	26日	1日	森林視察（北海道立北見北斗高校）	(43名)
令和5年	11月	8日	1日	森林視察（北海道立北の森づくり専門学院）	(19名)
令和5年	11月	9日	1日	森林視察（北海道立北の森づくり専門学院）	(20名)
令和5年	11月	21日	1日	森林視察（南富良野町、南富良野森林組合、北海道ガス）	(5名)
令和6年	2月	8日	1日	森林視察（北海道バリューSCOOP）	(16名)
令和6年	2月	22日	1日	エゾシカ対策（北海道立北の森づくり専門学院）	(41名)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

(1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、車両の進入を防止するためのプランターやベンチなどの設置を行なった。

また、市街地の財団管理地内において、稲荷神社敷地などの危険木並びに支障木処理を実施したほか、土地に係る産業廃棄物などの処理を行った。

事業費 631,440円（予算額 632,000円）

(2) 土地貸付

前年度に引き続き、表3-1のとおり土地の貸付を行った。

(表3-1) 土地貸付等状況一覧

契約区分	令和5年2月現在		令和6年1月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	202件	520,102 m ²	203件	520,339 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	20件	356,991 m ²	20件	356,991 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	222件	877,093 m ²	223件	877,330 m ²	

4. 温泉事業

財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行った。

(1) 警報装置更新事業

停電や設備の異常をリアルタイムに把握するため全ての源泉に設置している警報装置は、2026年に廃止予定のドコモ3G回線を活用してきているため、本回線については、2021年度より計画的に新たな回線へ更新をすすめている。令和5年度においては、3源泉（正次6号、12号、15号）の工事が完了したことにより7源泉が更新済みとなったため、未更新は残り4源泉となった。

事業費	1,500,000円（予算額 1,500,000円）
-----	----------------------------

(2) 新源泉掘削事業

ケーシングパイプの腐食による亀裂から冷泉が流入し、温度が低下したチップ川源泉の代替源泉として掘削を行った。

なお、本事業は令和2年度及び令和3年度において実施を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う観光事業の動向が不透明なことなどから、実施を見送っていたが、令和5年度事業として実施した。

事業費	45,118,823円（予算額 46,637,000円）
-----	------------------------------

(内訳)

・ 試錐費（掘削費）	24,200,000円
------------	-------------

・供給設備（ヘッダー）	3,650,000円
・インバーター購入調整費	5,188,000円
・温泉用水中ポンプ	2,125,000円
・水中ポンプ台座（曲管）	365,000円
・温泉供給設備格納庫	3,780,050円
・各種工事費（ヘッダー）	2,269,000円
・揚湯管及び配管資材（ポンプ・ヘッダー）	3,133,173円
・各種申請手数料	408,600円

（3）温泉ポンプ拡充事業

正次7号源泉にて運用中の温泉ポンプが故障し、入替を実施したことから、予備の水中ポンプを補充した。（常時3台備蓄）

事業費 2,125,000円（予算額 2,125,000円）

（4）源泉及び温泉供給設備の管理

令和6年1月現在の財団所有源泉数は昨年度から1本増加し16本（揚湯中11本、休止3本、観測井2本）である。昨年度に引き続き、令和6年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

（5）温泉供給

昨年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

(表4-1) 温泉供給状況一覧

供給区分	令和5年3月現在		令和6年1月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	62件	291本	62件	291本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道(阿寒湖畔診療所)等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	65件	298本	65件	298本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託した。

事業費

216,000円(予算額 216,000円)